

令和6年度 第2回浜松市幼児教育推進協議会 議事要旨

1 開催日時・開催場所		令和6年9月12日(木)午前9時15分から午前11時45分 社会福祉法人 松寿会 まつばこども園			
委員・有識者	氏名(敬称略)	所属等		氏名(敬称略)	所属等
	1 島田 桂吾	学識経験者 静岡大学大学院教育学研究科准教授		8 伊藤 寿美	市立保育所 三方原保育園園長
	2 山田 佳敬	認定こども園 まつばこども園園長		9 河合 享子	市立小学校 中ノ町小学校校長
	3 山崎 亜佐美	私立幼稚園 浜松学院大学付属幼稚園園長		10 大橋 美弥	保育園・こども園保護者代表
	4 竹内 映晴	私立保育所 まつのき保育園園長		11 名倉 哲也	幼稚園保護者代表
	5 島田 さち子	地域型保育事業所 あいあい保育ルーム園長		12 吉積 慶太	こども家庭部長(委員長)
	6 鈴木 波穂	認証保育所 ハレルヤ愛児園副園長		13 奥家 章夫	学校教育部長(副委員長)
	7 恩田 かおり	市立幼稚園 伊平幼稚園園長		14 青島 治道	教育センター所長
3 主な意見・質問等					
1 保育参観を通して					
<ul style="list-style-type: none"> 園独自の素朴な絵表示が見やすく温かみがある。子供が毎日行きたいと思う保育環境が整っている。 安心安全な環境で職員体制が整っている。園では丁寧な関わりが土台となっているが、学校への接続を考えると差が感じられる。園で育ててきたものを学校につなげていきたい。 ほぼ異年齢活動ということだが、年齢別活動はあるのだろうか。→(園より)5歳児は、他学年が昼寝の間、室内活動をしたり、単学年で運動的な遊びをしたりしている。2月からは文字に触れる活動をしている。 発達がゆっくりな子や集団になじめない子に一对一で関わり、やってみようとする意欲を育てている。子供が集団に入りたいタイミングで誘い掛けている。保護者の負担軽減となるオムツのサブスクを取り入れたり、古きよき手作りおもちゃを使ったり等、いろいろ工夫されている。 学びの場での異年齢活動は、ターゲットが難しい。運動能力を上げるよりも、一回やってみようとして楽しく前向きに臨む姿勢を認め育てていきたい。 どの子も穏やかで自分の好きなことに向かっている。遊びの中で自己決定し、自ら考えて動くことが大切である。発達に応じて、何を育てたいのか考え、環境を整え過ぎないことも必要かと思う。 子供の目線で考えられている環境である。調理室が子供からよく見え、アレルギー食は、トレーの色を変えテーブルも別にする配慮をしている。 フリーの先生(みんなの先生)のシステムがよく子供の主体性を大切にしている。学習の先取りは必要なくやりたいことをとことんやるのが大切である。小学校は、働き掛け過ぎになりがちで、やりたい思いをいかに学習につなげるかが課題である。 物的環境では、子供の年齢や実態に合った工夫があり、学校も参考にしたい。人的環境では、支援員の動き等細かく練られており充実している。園内研修の実施方法を知りたい。→(園より)遊びを通して何が育つか考え合う話し合いや、大学の先生の講義動画視聴、保育室のカメラ画像を通しての助言等を行っている。 子供が自分で選び考えられるように、環境や動線が工夫されている。小1ギャップを取り除くために、学校側は園にしてほしいことを言い、機能的なスペックを求めがちである。 					
2 浜松版「つながる」カリキュラム参考資料について(幼小接続期の教育・保育実践の参考資料)					
<ul style="list-style-type: none"> (担当より:資料の操作・活用の仕方について) ※PDF(デモ環境)上で、資料への移動を実際に体験する。二次元コードをクリックすると関連ページに移動する。より広く活用するために、インターネットPCや個人端末でも使用することができる。印刷用PDFにて紙媒体での活用も可能である。園のオリジナル資料の作成も検討していく。 ※研修での活用:小中学校の初任者研修、生活科研修、幼小接続に関する研修等での活用を考えている。 ※課題は、周知にあると思う。使用度を検証し、現場の声を聞くようにしていく。 レベルアップされている。自分たちが、職員や保護者にしっかり周知していきたい。 二次元コードの手軽さがよい。見たい時に見られ、いろいろな人が同じ目線で見ることができる。 保護者として、家庭に伝えたいポイントについて、保護者が知るとよい内容だと思う。→(担当より)HPで見ることができるので、保護者にもその旨伝えられるとよい。 就学前施設からは入りやすいが、学校側からは慣れが必要になる。(教科から入ると分かりにくい)展開の構成をガイドするとよい。保護者に連携について知ってもらうことはとても大事である。 各園の教育方針をしっかり落とし込むことが大切になる。しかし、それぞれの園の取り組みが違うため難しさを感じる。 各園の特色があるため、統一されていなければならないわけではない。違う環境で育ち経験値も異なるので、ファジーな感じの運用がよい。学校側も、当然やっていると知らないようにするとよい。 生活科と保育はかなり結びついている。園で体験していることが分かれば、それを利用して教員の指導の負担も減らすことができる。横のつながりも強くなっていく。 いろいろなことをやってみようとする気持ちが大事である。まずは、この資料を使ってもらうことを目指したい。 					
【島田先生より:参考資料へのコメント】					
<ul style="list-style-type: none"> 様々な視点からの意見を踏まえながら、改良に御尽力いただいたことに感謝したい。 資料検討の際に、小学校教員の幼児教育・保育の理解を進められるように意見を述べてきたが、今回「就学前施設編」「小学校編」と分けたことで、「想定する読者」を上手く区別できた。特に、「小学校編」では、上部に幼児教育・保育のねらいを示すことで、小学校の授業を計画する際のベースにしやすくなったように思う。 今後は、本資料を活用するための方策も、学校等へ周知していくとよい。 					
4 今後について	<p>(1) 開催日時及び場所について 令和7年2月5日(水)午後 第3回浜松市幼児教育推進協議会 ザザシティ浜松中央館5階大会議室</p> <p>(2) 内容 「第3次浜松市教育総合計画後期計画」及び「第2期浜松市子ども・若者支援プラン」実施状況の調査結果について ・浜松市版「つながる」カリキュラム参考資料について(幼小接続期の教育・保育実践の参考資料の報告) ・次年度に向けて</p>				